

PEOPLE OF KOBE 〈2〉

文・野口武彦 〈神戸大学文学部助教授〉

# 神戸の海とゴルフの50年

日本最初の女性ゴルフアー

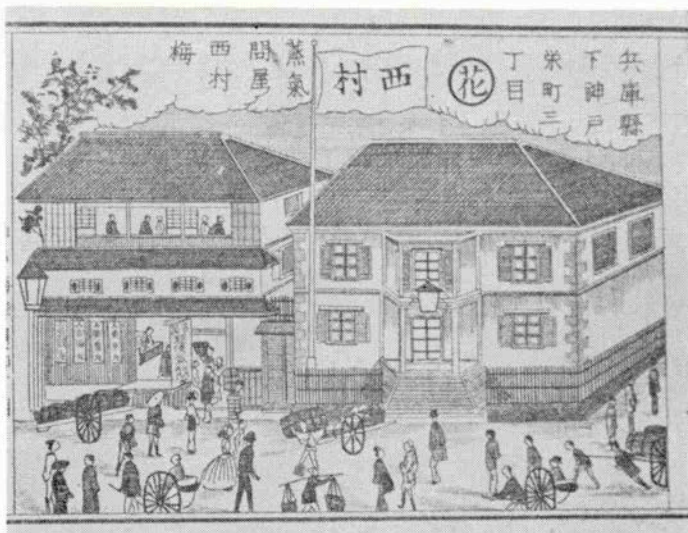
## 西村マサさん

西村マサさんの家は神戸市舞子、淡路島を指呼の間に  
見渡す海岸の丘の上にある。一日に数百艘の船舶が行き  
来する舞子ヶ浜。われわれが西村家をたずねた日は天気

清朗なれど波高く、松林をゆする風の音が騒いでいた。  
マサさんの半生は神戸の海となじみが深い。明治三〇  
年生れ、今年七七歳のマサさんと神戸との縁は、大正三

◀ 西村マサさん





明治15年の西村旅館（神戸・兵庫・明石豪商独案内之魁より）

年、当時十八歳の楚々たる少女だったマサさんが西村旅館の跡取り息子、故貫一氏に見初められてはるばる東京から嫁いできたときにはじまる。マサさんは東京の大きな禅宗の寺に生れた。東京府立第三高女（現在の都立駒場高校）に学んだ才媛。在学中に、これも東京の麻布中学に学んでいた貫一氏との間にロマン스가芽生え、たつての懇望に遠路はるか神戸まで嫁いでゆく決意をする。貫一氏はマサさんの亡兄の親友で、その縁から二人は近づいたという。さる著名外交官で外務大臣も勤めたことのある人物の令嬢からの縁談をふってまで、貫一氏はマサさんとの結婚を望んだとのことだから、芳紀十八才の魅力おして知るべしである。ともかくもここに神戸とマサさんとの生涯の結縁がはじまることになる。

神戸の西村旅館といえば、明治の初年以來、神戸港に間近い栄町三丁目に門戸をかまえている大老舗である。明治十九年までは、明治三女傑のひとりとして謳われた西村

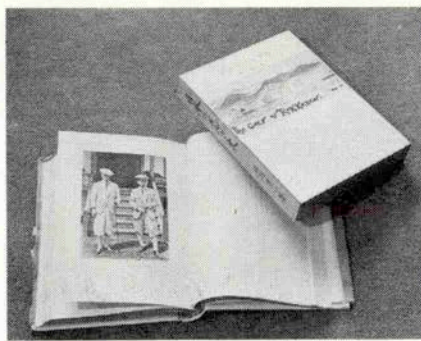
絹が経営を切りまわし、外国航路の表玄関たる神戸の一劃を牛耳って股脈をきわめていた。経営者の代がかわり明治が大正と改元してもそこは強弩の末、草分け以来の屋台骨はびくともゆるがず、海岸通りに櫛比する二十軒あまりの外航旅館の一つとして隆盛を誇っていた。その跡継ぎのところに嫁いできたマサさんは、そこで一躍、数奇なといつては語弊があるが、きわめて多事で波瀾に富んだ後半生を迎えなくてはならなかった。

ちなみに外航旅館というのは、神戸ならではの格式をそなえた、外国航路の船客ばかりを対象にした旅館である。客の宿泊のみならず船荷の廻送業も兼ね、通関手続きや出入国手続きも一手に代理を引き受けた。こんな話がある。当時の大蔵省の税法には「身分相応とみなされた荷物には免税云々」の条項があり、だれの何が身分相応であるかは旅館の格式できまつたという。外国航路の客船が港で検疫のために碇泊すると、西村旅館の若い衆が小船を漕ぎ寄せ、客の荷物に和紙の端を朱に染めた「上げ札」をつける。そうするたいがい荷物は「身分相応」の抜いになって税関をフリーパス。その代りに旅館には多少の見返りが入ることになって、船客たちの間には神戸税関の通過はやさしいが西村税関はむずかしいという冗談が流行したとか。今はむかし、神戸港のグッド・オールド・デイズの物語である。

現在、西村家には往時の旅館営業時代の爽大な宿泊者名簿が残されているが、そこにはさながら明治・大正・昭和の三代の日本の近隣外交史の縮図が読みとれるといつてよいだろう。明治時代には副島種臣、西園寺公望、小村寿太郎などの総帥貴顕にまじってフェノロサ、志賀重昂、横山大観などの名が見えるかと思えば、大正時代に入ると当時の大陸・半島国政策の影響だろうか外交関係の人士の往来がひんばんになる。年によって文官の隆盛あり、武官の跳梁あり。一見片々たる人名の羅列の背後に、どれだけの深い歴史が刻印されているやら津々として興味はつきない。これも当家に保存されているとい



ありし日の西村貫一さん（昭和35年撮影、65才）



『日本のゴルフ史』（昭和5年出版）

う宿泊名士の揮毫墨痕のたぐいにも、平時と戦時とに振子のようには揺れ動いた近代日本の、それぞれの時局が反映していることだろう。まさにこの旅館は、行き交う年々の逆旅であっ

た。

さて、大正のはじめのマサさんは、甲斐々々しくも初々しい旅館の若奥様、さぞやてきばきと客あしらいも愛想よく、縉紳貴顕の応接にいとまあらず、とは思いの外マサさんの口からは神戸に來たての頃は、この商売がいやでいやでという答えが返ってきた。

ぜひと嫁御にと望まれて、いったいに婚期の早い当時でも結婚はクラスでナンバーワン。東京駅のホームで

の持ち前の負けん気。そのあたりの人情の機微は、有吉佐和子さんだったら描写の妙をきわめるにちがいない。

ところでマサさんの半生を語る場合、それにもまして無視できないのが夫君貫一氏の存在である。戦後ほどなくして物故されたこの西村貫一氏なる人物、まことに一代の奇士の名に恥じない。西村旅館の跡継ぎに生まれながらいつさい家業をかえりみず、数度の外国旅行をこころみて美術品の蒐集に熱をあげる。大正九年には、マサさんを伴って欧州から米國に一年余り遊ぶ。それも山高帽に最新流行の背広という典型的なモボスタイルで、若妻には帰国後も（旅館営業にもかかわらず、である）一枚の着物も身につけることを禁じたというからその奇人ぶりがしのばれよう。しかしこの人物、決してたんに家産の蕩尽をこととする浪費家ではなかった。一面においてみごとな実務家の手腕を持っていたことは、生前の出版に係る『日本のゴルフ史』の著述、みずから蒐取した世界のゴルフ文献のビブリオグラフィ、そして近く梓にのぼるという遺稿『神戸西村旅館を通じて見たる明治・大正・昭和和文化史』に徴して明らかである。神戸は日本のゴルフ発祥の地であるが、貫一氏はその草分け時代の一

級友たちと泣いて別れを惜しんでいたマサさんは、どちらかといえば深窓の令嬢タイプ。とても客たちを左右にさばくという社交家型の女性ではなかった。旅館商売にはたずさわらないでよいという約束で嫁いだはずの婚家の、いまだからいえるが家つきの義姉がいて営業を切りまわし、当主の若奥様とあらばいわれるままに座敷に出て客に挨拶の一つもせねばならず、後でひとり泣いたことも幾度となくあったという。どうせのことならと覚悟をきめて客の応待も上手になったのは、マサさん



大正12年の「サンデー毎日」の表紙になったマサさんのフォーム



大正14年(29才)ハ  
ンディスクラッチ



現在(77才)のマサさん

人であり、現に日本最初のプロ・ゴルフアー福井覚治を育てた人物だとのこと。しかしその親父も昭和五年の不況以来、ふつりとゴルフをやめて家業に専念しはじめました、と令息の雅司氏(西村写真研究所経営)は語る。昭和八年の不況のどん底には没落寸前となり、旅館を売りに出すことまで考えにのぼった状態を切りぬけて、再び昔日の隆盛に戻したのも、一にかかって貫一氏が「極道」をやめ、営業の立て直しにかかったからだという。

ゴルフの実地から離れた貫一氏がその代りに書き上げたのが前述『日本のゴルフ史』である。

日本最初の女性ゴルフアーとしての西村マサさんの経歴も、そうした貫一さんとの結婚生活から生まれ出た一つの結実であった。前述の欧米旅行から帰国早々、大正十一年からマサさんはゴルフの稽古をはじめた。日本最古のコースとして知られる六甲山上の神戸ゴルフクラブとはいえ六甲に登るにはまだバスも車もなく、水道もなかった時代である。ゴルフ場までの道のりはおそらく駕籠と足であった。女のくせにという周囲の偏見をはねのけ、わずか三年の短時日の間にマサさんはシングルプレーヤーとなる。大正十四年から五年間、六甲のレディスクラブ・チャンピオンを連続して獲得するにいたるのである。一つのことに凝ったなら、他のことに眼も向けさせないという夫君の薫陶もさることながら、この輝かしいキャリアを実現させたものはやはりマサさんの気性、負けじ魂の賜物であつたろう。その間、鳴尾、茨木、舞子(現垂水)などのゴルフクラブに足跡を伸ばすかたわら、大正十三年には上海・香港・台湾・マニラなどにブレイ指導の旅にも出た。

いまでもマサさんは令息雅司氏や知人たちに伴われてコースをまわる。現代風のカストムになれていないので当惑することがしばしばだというから、昨今はゴルフアーたちのマナーも風俗も、昔とはだいぶ違ってきているのだろう。そこで当然、話はゴルフの今昔談義におちつくことになる。よくいわれる現代のゴルフブームについてどう思いますかという質問には、いいことだとは思いますが、でもいささか隔世の感があります、というのがマサさんの返事。たとえば昔のゴルフ場は、せいぜい一日に四、五十人のプレーヤー、しかもその各々にキャディが一人というしごくのんびりしたものだったが、最近では一日に二百人もが詰めかけてひしめきあうあります。それにみなさんスコアばかりに眼の色を変えて、ゆったりとブレイをたのしむ余裕がなくなったみたいね、

とマサさんの批評はなかなか手厳しい。

一昔前までは、ゴルフはある種の身分制にのっかった閑日月ある階層のスポーツだったといつてよいだろう。カウントリー・クラブは、いわばゴルフのかたちをとった社交と親睦の場であって、記録や賞品が自己目的ではなかった。戦後のゴルフはよくいえば大衆化、ありていにいって平民化とでも呼ぶべき現象が進んで、往昔の良き風俗が失われたのはやむをえない。

そう淡々と語るマサさんの口吻には、さすがは昔の大店の奥様、錚々たる大会社の社長夫人たちにゴルフを手ほどきした女傑の貫録がにじみ出て、神戸ゴルフの古きよき時代の回想がただよう。それと昨今のゴルフの「民衆化」と、そのへんの事は是非をどう考え合わせたらよいものか、ゴルフについては眼に一丁字ない筆者にはいかにも見当がつきかねるしだいである。よって借問す、世のゴルフ人士もっていかんとなす。

御亭主じこみのハイカラ趣味は、またたとえばマサさんのコーヒーの淹れ方ひとつにも現れた。若奥さまみずから豆を挽き、ブレンドするコーヒーの風味が格別だというのが東京でも評判になり、毎月「つばめ」で西下し、神戸から大連航路で下関へおもむく某大手セメント会社の社長が、その途次かならず西村旅館に立ち寄り、たった一杯のコーヒーに当時の金で百円、二百円の茶代をはずんでいったというから、これも古きよき時代の物語である。港湾と海運の町神戸、遠い海彼への夢が水の波にきらめき、希望と野心が船客たちの胸をふくらませ



左よりマサさん、雅司さん、筆者（舞子の自宅）

ていた港町のノスタルジアが、西村さんの半生の回想にはいつも蕩揺している。

昭和二十年三月、神戸の市街を襲った大空襲の炎は、明治以来ののれんを誇る西村旅館を灰燼に帰した。西村旅館八十七年の歴史はここに終止符を打つことになったのである。もちろん、戦後すぐ旅館を再建しようという考えもあるにはあった。しかしそれをしなかったのは、マサさんはじめ一族の英断であった。もしも西村旅館が幸いに焼失をまぬがれていたとしたら、アメリカ駐留軍に接收され、将兵相手のひらたくいえば娼婦宿、そんなものにされかねなかったのが時代の勢いだったろう、と雅司氏はいふ。西村旅館は創業以来の名を惜しみ、みずからをいさぎよく火中に葬ったというべきか。あるいはそれは、戦後に大型旅客機の時代が訪れて外航旅館そのものが存在理由を失ってゆくことを見越した、早すぎた摂理のはたらきであったかもしれない。

西村さんの家のある舞子の浜では、近く淡路島への架橋工事はじまるとのことである。またもう一つ、海に対する陸の侵略は文字どおりの橋頭堡を築いたことになる。

そういえば、神戸の市中心から高速道路に乗って走った須磨の山中は、いたるところ宅地造成で白茶けた地肌がむきだしにされていた。西村マサさんの半生と結びついてきた神戸の碧玉の海、緑ゆたかな六甲の自然はいまはもう取り戻すすべはないのだろうか。

マサさんのお話からは、今日の神戸が失いつつある何か貴重なものの実体がまざまざと感じとれるように思われた。

KOBE  
INTERNATIONAL  
JOURNAL  
SPOT

顔見世仮名手庵大歌舞伎

# 番町皿屋敷

カナディアン・アカデミー

「いっそ、そそのの振りをして、あのお皿を一枚打ちこわして、お菊が大事か、宝が大事か、殿様の本心を試してみよう……」

主人であり、恋人でもある殿様、その殿様の心を信じる……疑う……信じる……疑う……宝の皿を手に、立ち上がりかけては坐り、立ち、また坐り……。身分違いの恋におちてしまったお菊は、立派な家柄の美しい娘との縁談を勧められている恋人の愛を確信できない。命を賭けて男の心を探ろうと決意する時見せる魂の逡巡——。悲劇の運命の恨みと哀しみを込め、台詞は波が引くがごとく沈んでいく。無表情とも見える眼があらぬ方を見据えると、舞台はほう重い空気が、一瞬鈍くたじろぐ。

仮名手庵（『カナディアン』大歌舞伎。「番町皿屋敷」を演じるのは、カナディアン・アカデミーに学ぶ各国の生徒たち十五人。裏方をつめるのも、ヤマ場になると「ナリコマヤノ」「キノクニヤノ」と声をかける客席も、ほとんどが金髪や青い目。「修弾寺物語」「藤十郎の恋」に続く第三弾、仮名手庵大歌舞伎は前評判も高く、昨年十二月十五日、灘区長峰台の同校講堂で上演され、やんやの喝采を浴びた。

連日の猛げいこ、さすが。着物の着方、かつらや白粉も不自然でなく、しとやかな歩き方など、日本女性でもよほどの訓練を積まないと、ああは、なよやかな感じは出せまいと思うほど。



喧嘩早いグイ男青山権磨を演じるは、主役のロス・グリーアー君。



舞台正面にデンと現われた若い青山播磨は、その堂々たる体軀、額の具合いなど、立派で実にいいのだ。奴は、台詞が英語なまり(?)にはねて威勢がいい。

原作で岡本綺堂描くところの「細おもてのや」や寂しいのを暇にして、色のすぐれて白い、眉のやさしい」お菊は、その日も静かな愁いをたたえた美女。長く、居すまいを正したまま坐り続けて、時々つらそうにモジモジする様子がないでもなかったが、立ち際には、美事に立ち上がったではないか。腰元のおせんさんの、リンと張った細い声は不思議なリズムで古典的な抑揚を歌うように上下する。

この歌舞伎、約三十カ国の生徒が学ぶ同校で、日本語を教える海野光子先生の指導、学外から衣裳やメーカーキャップ、振付けなどの協力も得て、大道具小道具、チケット販売やカメラマンなど、すべてみんなの合作。日本の伝統芸術を理解しようという、若い、頼もしい体当たりだ。

「むむ。さては本心を探ろうために、わざと家の宝を打ち割って、播磨が性根をたしかに見届けようとしたか。菊。しかとさようか」

「は」

「それに相違ないのか。」

お菊は播磨の手で捻じ伏せられた。

潔白を疑われ、無念やるかたない男は、まだ愛してもいるお菊ながら手打ちにせずにはすまされない。そして、女が一生に一度の恋をしてその相手にいつわりのなかったことがわかれば死んでも満足と、うつむいて手を合わせるお菊。複雑な心理を、時代を隔て育ち、環境の全く違う彼らはどんな風に理解し、納得して演じたのだろうか。



ヤレヤレ、オヒルノ部ガオウツァン……満足気な顔でズラッと勢揃いした役者たち。

美しい伝説にもとづいた

# ルシア祭

関西日本スウェーデン協会

暗く長い冬を送る北歐人にとって明るい太陽のもとで過ごせるということがどんなに魅力的なものか。昔より北欧では12月13日が一年中で夜が最も長いと考えられ、この日を境に昼が少しずつ長くなって行くことは北歐人にとって大きな喜びであった——BC四〇〇年頃シリ島シラキユースに美しい瞳をもつルシアという美少女がいた。異教徒の盲目の青年に熱愛されたルシアは自らの目を盲の恋人に捧げ青年はキリスト教徒になった。ルシアの美しい心をよみ給うた神は更に美しい目を彼女に与えた。ルシアは以来殉教徒となり眼病の女神と崇められている。——殉教の美少女ルシアの伝説とラテン語で「光」を意味するルシアが結びつき約一五〇年前からスウェーデンでルシア祭が12月13日挙行されるようになった。

さてこちらは中山手にある神戸クラブの12月13日。駐日スウェーデン大使を招いての関西日本スウェーデン協会主催のルシア祭です。

純白のドレスを身にまとい赤々と燃えている七本のローソクを頂いた「ミルテン克蘭ス」という王冠を頭にのせて「サンタ・ルシア」の歌声と共に歩むルシア姫とお供の子供達。ルシア祭に欠かせないコーヒーとルシア・カーカ(クッキーの一種)をいただきながらの白く清らかなこの集いは暗い冬の夜に光と夢を与えてくれるメルヘンの香りただよう祭である。



右上 今年のルシア姫は日オ。右下 スウェーデン大使ご夫妻。中 これがルシアカーカです。とてもおいしい。左 ブロンドに青い瞳の未来のルシアたち

KOBE  
INTERNATIONAL  
JOURNAL  
SPOT

イケバナ・インターナショナル

# 小原流の巻

神戸支部例会

いけばなを通じて国際親善をはかるイケバナ・インターナショナル神戸支部の例会が、12月14日小原会館で開かれた。神戸や阪神間在住の外人や日本人約三十名が集い、東京から会長のメリー・フォードさんも出席。小原流芸術参考館を見学し、正月用の小原豊雲先生の力作「岩戸神楽」に関心が集まった。また、豊雲先生の指導でいけばなの講義があり小寺さんの同時通訳で皆さんメモを取る熱心さであった。デモンストレーションの後は日本の伝統を紹介する映画があり、例会はなごやかなうちに終わった。

この会は、昭和31年に東京で有志が集まって結成、本部は主婦の友会館内にある。ワシントン、ロンドン、パリ、ジュネーブ、メルボルンなど海外にも多くの支部があり、神戸支部は昨年9月に第一八一番目支部として結成され、現在登録人数は48名。例会は毎月第二金曜日になり、ティーパーティをしたり、各流派の先生を招いてデモンストレーションをしたり将来は展示会を開く予定だとか。またこの会はいけばなの流派をこえた集いで、いけばなと英会話に興味のある方は男女を問わず参加できる。会費は一年間五、五〇〇円で、ゲストとして参加希望の方は一回六〇〇円。入会希望の方は、野田礼子さん（宝塚市寿楽荘六一一、電話07977179194）まで申し込んで下さい。

▲会長のメリー・フォードさん



▲小原流家元豊雲氏



（写真左上）活気あるデモンストレーション（左下）イワトカグラをもの珍しそに

（右下）豊雲先生力作「岩戸神楽」

## MAKE UP WITH ROYAL

冬から春に  
ディオール、カルダン、サンローラン  
のセルロイド枠  
舶来、国産のオール・メタル・フレームにて  
よりよく装って下さい



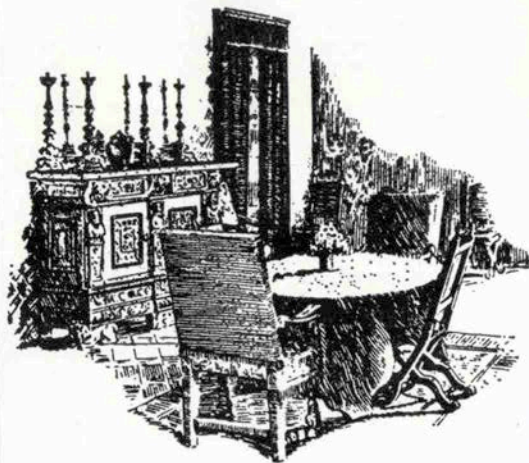
 神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表

三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874-5

元町店は毎水曜日がお休みです  
三宮店は第3水曜日がお休みです

## 欧風家具・婚礼家具



設計・創作

## 永田良介商店

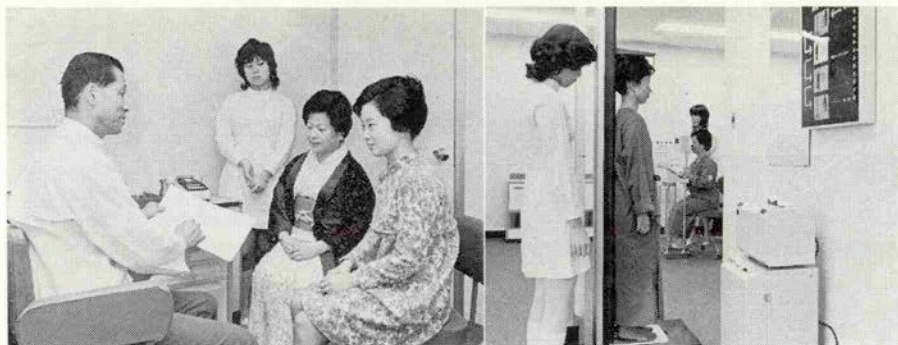
神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL神戸(391)3737  
(代表)

東京店・東急百貨店(日本橋店内6階 TEL03(211)0511  
本店(渋谷)7階 TEL03(462)3180

工場 神戸市垂水区多聞町 小東山975-35  
神戸木工センター TEL(078)706-5913

# 健診センターはホテルみたい

レポーター／山下文子・礼子（邦楽家）



神妙に三木院長に診断を聞く山下さん親娘

眼底検査と身長・体重を計る

目が醒めた。親子揃って、不安そう、緊張した顔／もし、恐しいことをされたら、恥も外聞もなく逃げ出す覚悟。とにかく、病院へ、出発。着いた所は、病院というより、温泉場のホテルみたいな所。私は眠いしおなかにはベコベコ。早速、検査が、始まる。

三カ所目は、胃のX線。ベコベコの私にとって、バリウムは美味／胃にドスンとポリウムがあった。糖飲も、キリンレモンみたいで、これ又美味。ちょっと困ったのは、眼底写真のために、左目が薬で、一日中見にくかった位。とにかく、無事検査終了。意外に、簡単だったので、拍子抜け結果は母子共に異常ナシ、アア良かった。たった三時間で全身を診てもらえるのですからとても手軽だし、忙しい私たちにピッタリ。安心して暮せる程幸福なことは無いと思いました。但し、老眼の必要な方は、眼鏡をお忘れなく（コンピューターの質問状の記入がたぐさんあるので）

## ★3時間ドックとは？

「気軽に成人病健診を」と、兵庫県下ではじめてのコンピューターによる健康診断センターが、神戸市長田区丸山町3、丸山病院（三木徹院長）に昨年五月に完成。現代人にマッチしたスピーディなシステムが人気となつて、モレツサラリーマンや、家族ぐるみの健診者が増えている。

健診は、血液、尿の検査。胸部X線、胃部X線。身長、体重、視力、血圧、眼圧の測定。心電図、心拍数解析、聴力、肺機能、眼底検査など六十六項目が全部自動的に進められ、コンピューターによって二日かかったものが三時間ですむ。費用は二万三千元「三十五歳以上の人はぜひ年に一度うけましょう」と呼びかけている。

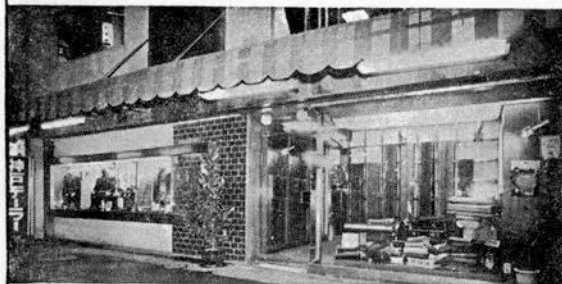
## 丸山病院 健診センター

神戸市長田区丸山町3丁目20

TEL 神戸078(642)1131(代)

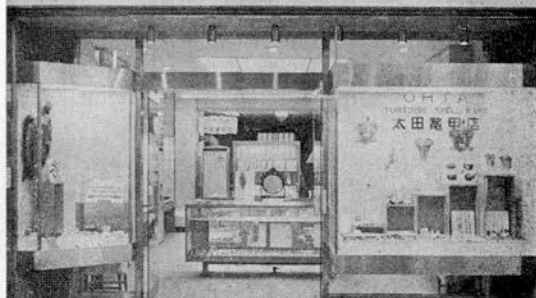
午前9時～午後5時

高級紳士服専門店  
神戸テラー



さんちかメンズタウン TEL(391)0388  
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL(331)2817・3173

太田鼈甲店



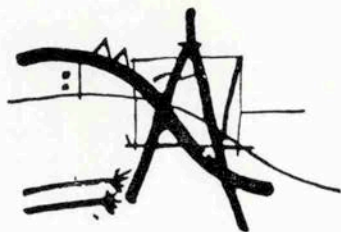
べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195

WINTER KOBE SHOPPING

額縁絵画・洋画材料  
室内工芸品



末積製額

三宮・大丸北  
トア・ロード  
331-1309・6243

ひょう

和田キイチの店  
パーマ&カットの店

おみせ 芦屋市船戸町3-6  
もしもし 0797(31)5 2 1 2

# 半又鮎



神戸三宮生田ノ杜ノ西 電話 (331) 0 9 3 5

おすし  
てんぷら



栄  
彌



営業時間  
A.M. 11.30 ~ P.M. 9.00

本店  
支店

大丸前・三宮神社東  
TEL (331) 5 7 7 2

(毎週水曜日休み)

さんちか味ののれん街  
TEL (391) 5 2 3 3

(第3水曜日休み)

## WINTER KOBE SHOPPING

やっぱりうまい  
むさしのとんかつ

とんかつ

三宮  
ムサシ  
でんわ・

321 321 331  
— 〇六三三  
— 〇六三三  
— 〇六三五



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL (341) 7290

# ソナエヨ・ツネニ

竹田 洋太郎 (在ニューヨーク) え・たかはし・もう

この年になるといろいろ心配ことが多いものだから、ついグチになってしまいうけれども、いわば「憂国の情」を吐露するために、ついむずかしい話になるのを許していただきます。

市や町の、いわゆるコミュニティが家庭に情報を伝達するチャンネルとしては、日本でもそうですが、学校の子供にいろいろな通達事項をプリントにして、帰って帰ってもらうこと。地域団体としては、日本と同様PTAという存在があります。子供が「地域情報伝達チャンネル」になるのですね。これは日本でも米国でも変わらない。というより、日本が戦後アメリカの真似をしたんだから当たり前のことです。

その子供が一番最初に学校から帰って帰ったパンフレットは、日本とはちがって「核攻撃に市民はいかに対処するか」という表紙のものでした。いま、ここで核攻撃をソ連かどこか知らないけれど、受けることはマズない。だけど、米国は核攻撃能力を持っている国だから、同時に核攻撃を受ける可能性がないとはいえない。

だから、核攻撃を受けることを考えて、そんな場合に市民はどうしたらいいか。一応知らせておくのが国として、政府としての責任です。

また同時に、その本には、集中豪雨のときには、地震のときには、トルネード、つまり旋風のときには、天災にあったときに、どうしたらいいかをこと細かに書いてあります。これを読んでいるだけで「日本沈没」以上の

小説が書けるのじゃないかと思っただけでした。

ところで、日本に台風、地震、集中豪雨はないのだから。どこではない。しょっちゅうありますね。その時に、住民の一人として、家族の一人として、まずどうしたらいいか。それをパンフレットにして、あなたの住んでいる市や町から配ってくれましたか。——ノウです。

日本に対する「核攻撃」、いい変えれば原子爆弾を落とされる可能性はどうでしょうか。バカなことでもいいではない、とおっしゃるでしょう。だが、世界で核攻撃を実際に受けたただ一つの国は日本です。だから、一度あったことは二度ある、というわけです。もし米国が核攻撃を受ければ、本当かどうか知らないけれど、カタキ打ちに核攻撃をする能力があるそうです。そこで、攻撃をする方も、ちょっと遠慮します。

だが日本はどうなのか。日本人や日本政府はどう思っているか知らないが、日本の外では、こう考えています。

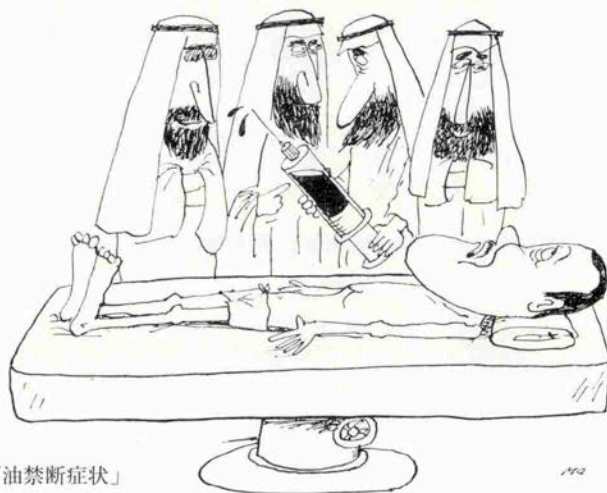
「日本は世界で初めて核攻撃を受けた国だ。従って、今後の核攻撃の損害をできるだけ少なくするために、おもな産業の疎開や、核攻撃に耐える建築をつくっているはずだ。また、核攻撃の経験があるから、イザといえはすぐ核爆弾をつくって、報復攻撃をやるシステムをつくるはずだ」——これが世界の常識です。そして日本ではこんなことをいうのは「非常識」です。

さて、この核攻撃を「石油禁輸」に置きかえてみまし

よう。

米国はエネルギーの七五%が自給自足できる国です。日本はちょうどその反対で、七三%を海外に頼っています。だから、日本をいまだに核攻撃する必要は全くなく、石油を止めさえすればいいわけです。

たまたまアラブ諸国の石油禁輸で、エライことになりましたが、これは全く日本にとって予想外のことなのでしょうか。日本が核攻撃を受ける可能性はまずないとしても、何パーセントかはあります。石油の供給ストップの可能性はそれどころか何十パーセントはあったわけです。その可能性のために日本はどれだけの準備をしていたのでしょうか。どうもゼロのようです。



「石油禁断症状」

それならなぜ日本の言論機関、というよりマスコミは政府にその準備をすることを要求しなかったのでしょうか。それどころか、近ごろの日本の新聞をよむと、政府は国民に石油需給について正しい情報を与えず、今日の危機は政府の「無策」によるものだ、盛んに攻撃しています。これはマスコミのズルサである逃げ口上です。

日本にとって石油がどんな意味を持つのか。そのための外交、経済をどうやってつらうか。政治家が気づかない時に教えてあげるのが言論機関の第一の仕事です。「正しい情報」は政府が発表するものではなく、言論人が命をかけて得てくるものです。なぜそれを日本のマスコミは本気でしなかったのか。

ここでマスコミをせめるのは、かわいそうです。かつて、マスコミの人間として、私が二年前に「日本はなんとしても『耐乏生活』にはいるべきだ」とか「マラッカ海峡で衝突事故があったら、日本はお手上げだ」というと「意見としてはおもしろいが、オトギバナシだね」といわれました。そうです。私の言葉は「非常識」だったのです。

そのことをいま自慢したって無意味ですが、いまの日本の「世論」（だれがいったかわからないが）を見ると、ますます国際常識からはなれた「日本常識」いいかえれば国際的非常識の深みへはいっていきつつあるようです。

どうも議論ばかりでごめんなさい。

ところで、米国では七三年末現在、まだガソリンは配給制になっていず、ヘタなドライブをとくとき私もやりますが、ガソリンの配給切符は七三年「四月」すでに印刷済みだそうです。日本も配給切符はガソリンだけでなく、洗剤、石けん、トイレットペーパーなどできているのでしょうか。

昨年おしつまってからの禁輸解除で、ほっと一安心ですが、それこそ一度あったことは二度ある。ソナエヨ・ツネニです。